

Financial market imperfection in an open economy

岡山商科大学 経済学部

井田 大輔

近年の金融のグローバル化の拡大は、国際的な金融リンクを強化している。しかし、米国発の世界的な金融危機は深刻な経済停滞をもたらした。このことは、中央銀行はグローバルな視点から金融不安定性を考える必要があることを示唆している。本稿の目的は、金融市場の不安定性が二国ニューケインジアン・モデルにおいて重要なのか否かを検証することである。分析からは、ある国の構造ショックが他国に波及する大きさは金融市場の不完全性の程度に依存することがわかった。また、金融市場の不安定性の程度が拡大するにつれて、経済に発生する厚生損失も大きくなることが確認された。本稿ではさらに、金融市場の不完全性が存在する二国モデルにおける中央銀行の金利平準化の役割についても調べている。閉鎖経済モデルでは、金利スミージングの有効性が強調されているが、本稿の分析からは、高い金利のスミージングを行うことは経済厚生を低めることがわかった。